



思い出

●●先生の思い出を書こう…と、これは前の学年を担当した時の学級通信でもある。その時のクラスが歌ったのが「はじまり」であり、それに関連して書いたものである。

*

私が前に担任をした時、そのクラスが2年生の時に歌ったのが「はじまり」である。合唱祭委員はとてもしっかりした女子で、各パートの歌唱指導をした上に、自ら指揮も担当した。2年生は部活で中心的な役割を果たすこともあって、思うように練習に人が集まらないこともあったが、彼女は（自分の部活もこなしながら）諦めることなくクラスを叱咤激励し、練習計画を立て、クラスをまとめていった。しかし、残念ながら結果は学年7位…。難しい曲である。抑揚をたっぷりとつけ、抒情的かつ力強く表現することが求められるのだが、それが今一つだったのだろう。

合唱祭の翌日、めったに休むことのないその女子が欠席…。あの時のホームルームの暗い雰囲気は、今でも思い出せる。クラス全員が彼女のがんばりを知っていたから、自分たちの不甲斐なさが、彼女をガッカリさせたに違いないと感じていたのである。

ただ、本人は「休んだのはそんなんじゃないよ、風邪だよ」と翌日登校した時には、みんなに明るく説明していたが…。

日比谷は2・3年生でクラス替えはない。3年生になって、再び彼女は合唱祭委員に立候補した。そしてその時、誰も何も言わなかったが、心の中では「彼女のためにも必ずリベンジする！」と誓っていたにちがいない。私はそんな感じを受けた。

しかし、クラス替えがないということは、

練習成果がそのまま結果に結びつく合唱では、2年目にもそうやすやすリベンジなどできるはずがないことを意味する。ましてや3年生、どのクラスも最後の合唱祭ということで、優勝目指して練習を重ねてくる。彼女のためにリベンジしようというクラス全員の気持ちをうれしくは感じながらも、私はそうやすやすとはいかないだろうし、力みすぎて（去年よりも悪い）学年8位という可能性だってあると危ぶんでいた。

本番が近づき、イイ仕上がりであることは感じていたが、さてどうなることかと、当日はドキドキであった…。

そして、結果は「総合1位」であった！（曲は「クラリネットを壊しちゃった」と「俵積み唄」）前年の学年7位から優勝というのは、かつてない結果だそうである。

合唱祭が終わって日比谷公会堂を出た時、日比谷公園の真ん中でクラス全員が輪を作り、合唱祭委員一人一人がスピーチをした。彼女のスピーチが終わったあと、クラスみんな彼女の胴上げをした。スカートだからというので、男子の一人が自分のはいていたズボンで彼女にはかせてやった。あの時のみんなの笑顔は決して忘れることはないだろう、私も、そしてクラスの全員も…。

*

優勝は結果である。しかし、大切なのは「思い」である。前のクラスの合唱祭に対する思い、それは「友だち」であった。そして、その思いを優勝という形で表現したのである。私は彼女のことを、そして、そういうクラスのことを、誇らしく思い出すのである。